

せせらぎ通信



中世 1250年 建長2年に栄えた 波多野忠綱城跡

日時 平成24年6月24日(日)朝9時 **金目川上流の 東田原自然観察行 募集!**

集合 小田急線秦野駅改札 及び 南口

* 金目川の上流 象ヶ谷戸から取水して、東田原の田園を潤して
金目川に戻る

* 地下水活用の水神めぐり * 東田原の生き物の湿地

* 東田原の地下水涵養池

* 田原ふるさと公園(湧水が流れ出る親水地)

* 源実朝公 御首塚 みしるしづか



東田原の地下水涵養池

申込先 小林公園 0463-32-4987、090-8594-4866



田園風景



源実朝公 御首塚 みしるしづか



竹林

金目川下流土手と河原の清掃

- 日時 平成24年3月11日(日)午前9時30分～
- 集合 花水橋たもと(大磯側)空き地 朝9時15分
- 作業地 JR鉄橋下～高麗大橋の右岸(大磯側)左岸(平塚側)
- 服装等 長靴、手袋、ごみハサミほか
- 参加者 金目川水系流域ネットワーク、丹沢山塊の自然を考える会、サムライなでしこ草刈り隊、相模川湘南地域協議会、横浜ゴム ほかがともに活動いたしました。



大山は雪だ、足取り軽くゴミ拾い姿

3月11日(日)金目川水系流域ネットワーク・丹沢山塊の自然を考える会・サムライなでしこ草刈り隊・横浜ゴムほかなど総勢40名以上が集まり、花水橋から高麗大橋までの両岸のごみを拾いました。

発砲スチロールや空き缶などが目立ち、大きなごみ袋もたちまちいっぱいになり、高麗大橋に着くころは三つ目の袋が運べないほどに膨らんでいました。

所々にごみがたくさん固まっています。どうやら上流から流れてきたごみのたまり場になっていたようです。

始めのころは曇って寒いくらいでしたが、終わるころには日差しも出てきました。桜のつぼみはまだ固かったけれど、4月にはきれいになった岸辺の桜を堪能できるでしょう。



金目川左岸にも春の気配、頑張るゴミ拾い

金目川下流(花水川)の放射能測定

去る23年12月27日の午後1時から3時に金目川下流(花水川)の花水橋から高麗大橋の次の27箇所を測定しました。

- ・右岸と左岸の土手の上・土手の下
- ・岸辺の柳の下・河原の中洲
- ・サイクリング道路脇・草むら
- ・土手から離れた民家の道路

結果は次の通りでした。

単位はマイクロシーベルトです。

- ・地表から数センチで 0.248
- ・腰高 80センチで 0.106

① 雨水が集まり、たまる所は高い値を示しました。

② (泥つきの側溝・溝・トイの下) 雨水が流れ着く所

③ たまらずに流れる所は低い値を示しました。

(河原の中洲の砂利・道路・柳の下)

特に 屋根の雨水が集まるマスの底は0.721とかなり高い値を示しました。コンクリートの蓋の上は0.106でした。
※平塚市除染基準は0.23です。

府川 清
小林公園

ケヤキを主体とした

水害防備林について

水害防備林活動家

石野和男

水害防備林との出会い

私は約10年前に水害による主に橋梁の被害現地調査を開始しました。その中で2004年の飛騨宮川での調査時に、地元小学校の先生・生徒・父兄が作成した報告書を図書館で見つけて、その小学校に報告書を一部分けていただきたいと手紙を出しました。これに対して、当時校長であられた佐野浩一先生が以下のご返事を出されました。

「飛騨宮川では、河畔にケヤキ林が生えていて、観測史上最大の洪水に対して水没したが流出はしなかった。一方、河畔のスギ林は、流出してしまっただけで、これらの現象を調査して、河岸の浸食防止等に役立てませんか?」このご返事に対応して、調査を始めたのが水害防備林との出会いです。写真1に飛騨宮川における河川沿いの杉林(左側の細い樹木)を守るケヤキ(中央の太い幹)を示します。



1 河川沿いの杉林を守るケヤキ
このケヤキは大正年代の大水害の後に自生した人が守ったと考察しています。

なお、ケヤキは広葉樹で、冬の樹形は竹箒を逆さにしたような形状で枝の先まで根が生えて水を好み、岩盤の上でも生えます。このため、針葉樹よりも倒れにくいと言われています。

またケヤキは排気ガスに強いことから戦後に街路樹として各所に植えられています。仙台や東京原宿の街路樹が有名です。

水害防備林とは？ その歴史

強固な堤防を築き上げた近代の河川改修が行われる前は、数年に一度は堤防が決壊することがあり、堤防の背後の田畑・民家側に林を植えて、洪水の流速を弱めたり、流木が河川から田畑・民家側に流出しないようにしていました。この林のことを水害防備林と言います。ここで、武田信玄が築造し始めたと伝承されている、山梨県竜王町の釜無川左岸の信玄堤の水害防備林を例に、その歴史を示します。

出展 「武田信玄と治水・中村正賢著」

「釜無川の水害・菊島信清著」

信玄堤創設時代（1542～1557）

（おおよそ400年前）

河川沿岸に多くの竹林を造成との記録もあるが真偽は不明

下河除堤築造時代 慶長11（1607）年

（おおよそ400年前）

植えるという思想があった。

西八幡堤築造時代 貞享5（1688）年

（おおよそ330年前）

竹と松・柳が植えられていた。

括ノ堤完成後 文政（1820）2年

（おおよそ190年前）

クヌギ、エノキ、クリ、ケヤキ、カキ、雑木、スギ、ナラが植えられていた。

大正（1916）4年8月（94年前）

信玄堤は、これに接続する下流の土地をも合せて一括保安林に編入され、現在は延長1800間（3,272m）面積約20町歩に及んでいる。

大正（1916）4年8月（94年前）

信玄堤はこれに接続する。

昭和25年（60年前）

クリ、エノキ、ヤナギ、サクラ、クルミ、ケヤキ、ナラ、苦竹750本、樹齢：135～200年、延長：2091m、幅73～127m区域内で。

2004年頃保坂氏調査結果

推定樹齢115～138年のケヤキは上流から1241m内に分布、推定樹齢90～113年のケヤキは上流から1717m内に分布している。

このように、竹林から始まり、松・柳、広葉樹が植えられて、現在は、ケヤキが主体となっています。このケヤキは明治時代に植えられています。関東のケヤキ林を調査すると、明治時代に植えられたものが多く見られます。江戸時代は、七木の制を代表として活用材は勝手に切れなかつたが、明治時代になりその制度が無くなり完伐されたこと、ケヤキは高価な木材としての活用が可能であること、昔の人は洪水後

の防備林の状態を観察して、ケヤキが根を広く張り倒れ難いことを見て、植えたのかもしれない。



2 現在の信玄堤中央部の鬱蒼としたケヤキ

水害防備林の現状と夢

水害防備林に関する研究は、昭和20～30年代に盛んに行われていましたが、堤防が強固になり破堤が発生することが少なくなったことと昭和33年の狩野川台風で、堤防の上に植えられた樹木が強風により根ごとぎ倒れて、堤防を壊したことに等しい、少なくなったようです。

それに従い、新たに水害防備林を植えることも少なくなりました。

平成になり河川事業に環境のキーワードが加わり、また水害が多発し始めてきて、水害防備林の研究もわずかですが再開されています。

私は、出張時の空いた時間等を利用して、各所の水害防備林を調べています。写真2に示す現在の信玄堤中央部は鬱蒼としたケヤキ林であり、水害防備林の機能を保持していますが、写真3に示す現在の信玄堤上流部は、疎らな古木のケヤキ林となり水害防備林の機能を保持していないように見られます。この疎らな場所に古木から蔭られる実生の自生を活用してケヤキ林を再生することが私の夢であり、今後の使命と考えています。

なお、神奈川県では酒匂川の開成町の文明橋の下流の両岸にケヤキ林を主体とした水害防備林が見られます。



3 現在の信玄堤上流部の疎らなケヤキ林

